

SHIRAKOBATO

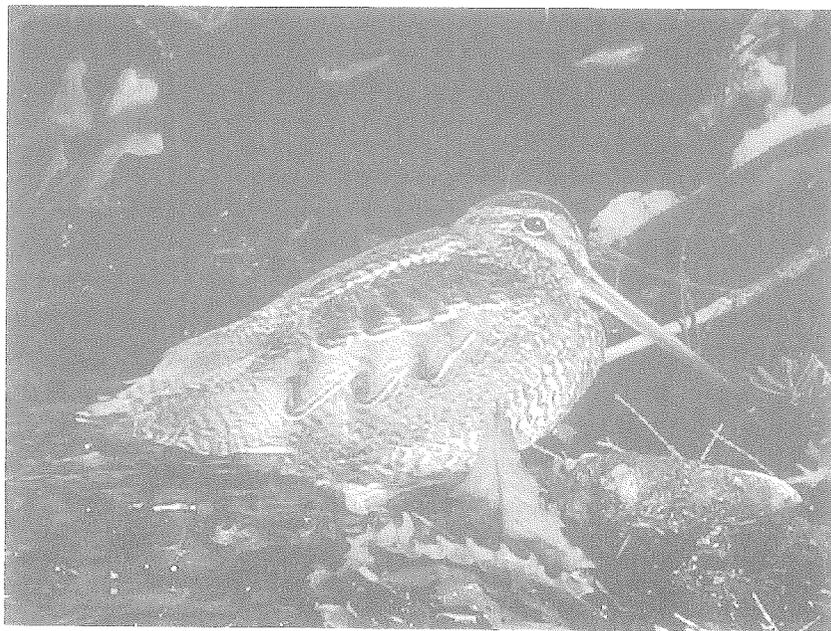
しらこぼと



1996. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 141

日本野鳥の会埼玉県支部

わいわいがやがや

会員の皆様、新年おめでとうございます。おめでたいところで、にぎやかに地鳴きコーナーを始めましょう。ん？地鳴きがにぎやかかって？……。そりゃあ、もう……。ね。

長野県・白馬高原探鳥会
三好道彦・秀子（行田市）

集合地はJR長野駅。駅からは「にほめの一步」のオーナー渡辺浩平さんにワゴン車で白馬へと運んでいただく。

途中の山々は紅葉まっ盛りで、その美しさに車中から思わず歓声が上がります。白馬は前日雪だったそうで、今日も天気はくもっている。雪のため最初の探鳥地は猿倉林道から居谷里湿原へと変更になる。残念ながら鳥は声が聞こえるばかりで姿が見えない。

白馬手前の青木湖でマガモ、カルガモ、オシドリ、カンムリカイツブリ等の水鳥を観察。宿に荷物を預けて上部林道へと向かう。カシラダカ、ミヤマホオジロ、メボソムシクイなどが出現。夕闇が迫ってきたので宿へ。

夕食前には車で温泉へ連れていっていただき本日の汗を流す。夜は野鳥と「白馬の高山植物」のビデオを鑑賞、ホロ酔い加減でぐっすり睡眠。

翌日は快晴。「にほめの一步」を出発してすぐにカケスに出会う。浅間山ではお待ちかねのミヤマホオジロをじっくり観察、そのかわいらしさにウツリする。その他ホオジロ、コガラ、ヒガラ、コゲラ、アカゲラ、エナガなどいろいろな鳥たちに見入る。

朝食には焼きたてパンが登場し、そのおいしさに、つい3つも食べてしまった。再び上

部林道へ。今度は楠川ぞいの林道を下りもどる。

白く輝く北アルプス、ふもとは赤や黄色に光る紅葉、そして温泉、おいしい食事。

一泊探鳥会初参加の私達夫婦でしたが、リーダーの方々、オーナー、また同行の皆様のおかげで、素晴らしい探鳥会を経験することができました。本当にありがとうございました。

小説『ダック・コール』
（稻見一良著）を読んで
榎本秀和（鴻巣市）

9月の初めのある午後、若者は、石に鳥の絵を描く不思議な男と出会い一夜を過ごす。この小説は、一夜という時の流れの中で夢のように綴られる6つの短編の集まりである。

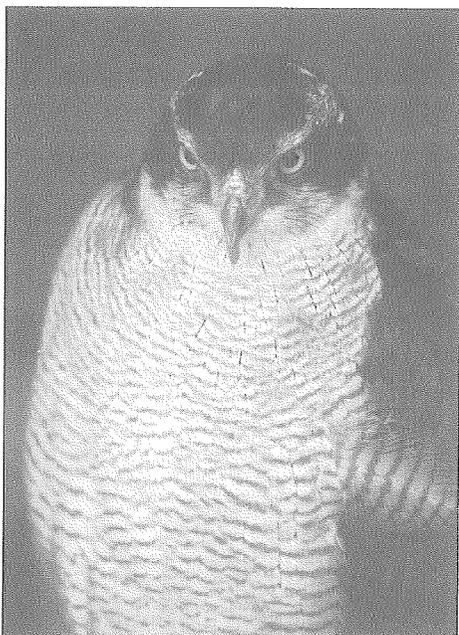
6編の物語は、ハードボイルド調からファンタスティックなものまで、それぞれに味わいが異なるのであるが、しかし、野鳥が存在感を持って描かれているという点は全てに共通している。

野鳥が描かれているといっても、野鳥と人との感傷的な触れ合いなどではない。むしろ人が、野鳥あるいは自然と一体化したことで日常社会から疎んじられる光景、といってもよいかもしれない。それでも人としての矜持をなおも貫く主人公の姿を、淡々と伝えてくれる作品群である。

野鳥の描写は細かく、バードウォッチャーなら「うんうん」とうなずきながら、時には図鑑を取り出して確認してしまう人もあることであろう。おそらく著者は、経験に裏打ちされた、いわゆるアウトドアにおいては相当「やる」男に間違いないのである。

ところで、題名の「ダック・コール」とは鴨笛のことであるが、実は作品中に鴨笛は一度も登場することはない。しかし、鴨笛がカ





(1富士 2タカ 3……)

モを呼び寄せるように、この小説に心ときめかせるバードウォッチャーは少なくないのではあるまいか。(ハヤカワ文庫 600円)

とかくしに……
しまださおり (こうのすし 小1)

わたしは、ながのに……ととてもたのしかったのは、ばすにのってやまをみたり、みんなといっしょにとりをみました。さいたまとちがって、けしきもすがすがしいとおもいました。

ゆうがたのしょくじのまえに、ちゅうしゃまでおさんぼしたり、かいだんをのぼったりしました。さおりは、あのかいだんをぜんぶのぼってしまいました。だいのおとなは、あのかいだんをのぼたらへこたれてしまいました。ゆうがたのしょくじは、おいしかったです。

さいごのひは、こうげんに……とりをみました。やまはとてもいいし、もみじもきれいでした。おひるのごはんは、おいしかったです。みんなといっしょにいかれて、さいこうによかったとおもいます。ひしめき、ふじかけさんには、とてもよくしてもらいました。ほんとうにどうもありがとうございました。また、らいねんいきたいとおもいます。

新年、明けまして おめでとうございます

日本野鳥の会埼玉県支部 支部長 松井昭吾

ご家庭で、または探鳥地でそれぞれの場で新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



昨年は余りにも多くの不快な事件がありました

が、埼玉県支部は発足以来11年、着々と堅実な成長をとげ、2,700人の会員を有する大支部となりました。年間100回以上の探鳥会をこなし、リーダー研修会を定期的に行ない、季節的な生態調査を行なっていました。

さて、本年は少々反省をしてみようではありませんか。

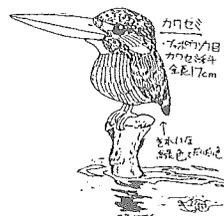
もともとボランティアが原動力である会で、皆さんのお力をもう少し提供していただけないでしょうか。当支部をより活動的にするためには、まだまだパワーが欲しいのです。探鳥会のリーダー、調査研究、販売、展示会の力仕事等々で、人手が不足しているのです。参加していただければ、本当に助かります。呼びかけに、是非とも応えて顔を出そうではありませんか。

支部のメンバーとして共に汗し、共に珍鳥を求め、ケネディ大統領ではありませんが、『国が何をしてくれるかを問うなかれ、むしろ貴方が国に何ができるかを問いたまえ』。

年頭にあたり、私はこのようなボランティア精神に基づいた皆様のご協力をお願いします。

カワセミ
上野越郎 (川越南 小4)

チャップン
チーチー
パンパンパン



ー オイカワ

(カット 富士鷹なすび)

見ることから

渡邊光行（浦和市）

自然を見ることに、注意をはらうようになってから、約5年がたちました。この間、みなさんに教えていただいたり、励ましていただいた事は感謝の気持でいっぱいです。

また指導的な事もさせていただき、間違っただ名前を教えてしまい、穴があったら入りたい気持ちになったりもしました。

そんな中、もう一度自然を考えなおしているのは、5年目の節目なのか壁なのかはわかりませんが、今までの観察会なり探鳥会なりに、なんらかの過不足も感じています。

その一つは、観察会や探鳥会がもしかすると趣味の会になっているのではないかと思う点です。今は、自然を見ることから分布・変化等の調査から保護等への活動の必要性を考えています。その上から、日本や世界の動向からの自然を考える必要性もあるものと思います。

もう一つ気になる点は、観察会や探鳥会での注意点として上げられる、「採集はしないでください」という点ですが、前の事にも関連するのですが、個々の生物の在り方を知り、その上で適した対処法を教えるべきだと思います。

保護等の必要性のない生物にあっては、手に取り違いを調べ、判らなければ持ち帰り調査しても良いと思います。観察会や探鳥会でもそれらの事を十分に考慮すべきではないかと思えます。

一律に自然を見る事は簡単かもしれませんが、一つ一つの生命体を広い視野で調べる必要性もあるように思います。自然と接する時は、子供のように五感や第六感をも通した姿勢であるべきではないでしょうか。

（事務局から：「事務局への電話その3」と共通する問題です。自然観察会には、いろいろなやり方があることを十分承知しながら、そのやり方の一つとして、当支部の探鳥会では、採集しない方法を選択しているわけです。その上で、いきいきとした感性による感動と、そこを出発点とした地球の自然保護への視点を目指しています。）

事務局への電話

海老原美夫（事務局）

【その1】「ペットショップでメジロを買ってきました。輸入証明書というのが付いています。飼い方を教えてください」

……野鳥の会は、『野の鳥は野に』、野鳥を飼うのはやめましょうという運動を進めている会です。飼い方を教えることはできません。また、輸入証明書は国内の野鳥密猟の隠れ蓑に悪用されている場合があります。あるいは例え輸入に間違いなくとも、その国ではやはり野鳥だったわけです。飼うことはお勧めできません。

【その2】「そちらで出した『気ままにバードウォッチング』という本に、シラコバトが新三郷駅で営巣していると書いてあったので（数日前の10月に）探しに行ったが、見当たらなかった。間違っているのではないか」

……ハトはピジョンミルクというもので子育てをするので、一応一年中いつでも繁殖する可能性はあります。それでもやはり通常野鳥の繁殖時期は春から初夏にかけてです。その頃に行ってみたら、巣がある可能性は高いと思います。

【その3】「本部が昆虫採集を認めているのに、探鳥会規定で埼玉県支部が昆虫採集を禁止しているのはおかしい。これでは埼玉県支部がすべての昆虫採集に反対している事になるではないか」

……本部が昆虫採集を無制限に認めているわけではなく、フィールドマナーで採集はしないように呼びかけています。支部の探鳥会規定は、やはり、当支部の探鳥会では昆虫採集はしないでほしいという意味です。当支部が世の中のすべての昆虫採集を禁止するという意味ではありません。昆虫採集についてはいろいろ議論が必要と考え、『しらこぼと』で賛否各論を掲載した事もあります。

（支部事務局って、結構疲れるんです）

ごめんなさいコーナー

先月12月号7頁、ノビタキ欄の「9月30日、大麻生2羽」と「9月30日、さきたま古墳公園4羽」はエソビタキでした。

鳥の目から環境を調べよう！

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査は今月号に同封した調査はがきに、12月1日から1月31日まで会員諸氏が自宅から半径50m以内で確認（姿、声、上空通過）された鳥を、確認方法を含め記入、郵送することにより行われます。

高層住宅、1～2階建て住宅、商業、工場、農業（畑）、農業（田）、林業の各地区区分と、細かな環境と鳥の関係を調べますので、自宅から半径50m以内の様子を調査はがきに忘れずにご記入下さい。

近年、ツバメなど身近にいた鳥が姿を消し、その一方でチョウゲンボウなどビルで繁殖する鳥も現れたり、人の住む環境に生息する鳥も様変わりしつつあります。農地や山林の住宅地化、旧来の市街地や住宅地の再開発

などが原因と考えられます。

本調査は人の住む環境の変化を鳥の目から見て、人と鳥の関係を調べて行こうとするものです。御自宅のできる調査ですので積極的な参加をお願いします。（小荷田行男）



オオマシコ♀（菱沼一充）

はみ出し行事案内

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月28日（日）

集合：午前9時 JR高崎線深谷駅北口 渋沢栄一像付近。

担当：菱沼（一）、小池、小淵、斉藤、小野沢、中島（章）、関根、新井、倉崎、堀

見どころ：冬の小鳥たち、いつも元気なシジュウカラに加え、ヒガラやヤマガラも。キクイタダキ、ルリビタキも期待できるかな。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：1月28日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線 本川越8:43発、所沢8:45発に乗車

解散：稲荷山公園にて正午頃

担当：長谷部、三田、石井（幸）、高草木、小野、中村（祐）、山本、藤掛

見どころ：一月の探鳥会では、水辺の鳥・山野の鳥あわせて40種くらいの鳥が観察されます。すごい見せ場はないけれ

ど、身近な自然を楽しむことができます。

大宮市・花の丘公園探鳥会

期日：2月3日（土）

集合：午前8時15分 JR大宮駅西口8番バス停上の通路、集合後バスで現地へ。または午前9時 花の丘公園事務所前駐車場

担当：桜庭、松井、新堂、高松、佐藤（進）、飯塚、浅見（健）、浅見（徹）

見どころ：春を待つ草花の公園と周辺の林の中を歩きます。シジュウカラやケラ類、その他の小鳥たちにあえるのが楽しみです。今度こそ♪は一れになーれ♪

2月4日（日）：石戸宿定例探鳥会

：軽井沢探鳥会

：深作川遊水池

：民家園周辺定例探鳥会

ハジロカイツブリ ◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で1羽（鈴木博志）。

ヨシゴイ ◇10月28日、大宮市の芝川でアシ原の上を低く飛んできて、アシの間に潜り込みました。当地初認（浅見徹）。

ゴイサギ ◇11月16日、浦和市の別所沼公園会館前の茂った林の中で2～3羽（小川力雄）。

オシドリ ◇11月5日、戸田市の彩湖で♂6羽♀9羽（高橋達也）。

ハシビロガモ ◇11月19日、坂戸市入西の調節池で♂1羽。坂戸市内では初めて見る（増尾隆・節子）。

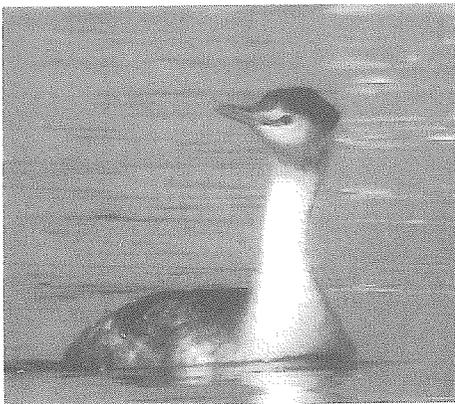
クロガモ ◇11月19日、戸田市の彩湖でホシハジロ群れ中に♀1羽（高橋達也）。

スズガモ ◇10月9～11日、吉見町の総合運動公園の沼で♀1羽（逸見嶮、岡安征也、内藤義雄）。◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で♀2羽（鈴木博志）。◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋下流で各1羽（登坂久雄）。

ミサゴ ◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋下流で1羽（登坂久雄）。

オオタカ ◇11月18日、深谷市の仙元山公園で若鳥1羽。オオタカの身体が陽に輝いてキラキラと美しかった（小池一男）。

ノスリ ◇10月28日、本庄市の利根川坂東大



カンムリカイツブリ

橋下流で1羽（登坂久雄）。◇11月13日、坂戸市入西上空で1羽。カラス数羽にモビングされる（増尾節子）。

ハイロチュウヒ ◇10月16日、吉見町の総合運動公園内の未整地の草原で♀1羽。低く飛ぶ（内藤義雄）。◇11月11日、北本市の荒川高尾冠水橋付近で♀1羽。ホバリングの後、餌を捕り、電柱のうえにとまり、食べる（内藤義雄）。

チュウヒ ◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋下流で1羽（登坂久雄）。

チョウゲンボウ ◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋下流で3羽（登坂久雄）。◇10月29日、坂戸市島田で2羽。カラスにモビングされたり、停空飛翔も何度も見せてくれた（黒木昭雄、増尾隆・節子）。

オオバン ◇11月12日、坂戸市入西の調節池で1羽。水辺の草の中で白い額が目立つ（黒木昭雄、増尾隆）。

ケリ ◇11月19日、坂戸市入西の元湿地で2羽（増尾隆・節子）。

タゲリ ◇10月22日、大宮市の治水橋南側の荒川河川敷で6羽。ソフトボール大会でベンチにいて、ふと空を見上げると、灰色の寒そうな雲の下を南から北へフワフワと飛んで行きました（浅見徹）。◇11月5日、戸田市の彩湖で9羽（高橋達也）。◇11月5日、羽生市の利根川の中洲で13羽。カヌーでそっと、そっと近寄って約20メートルの距離から観察（青山紘一、外山雅大）。◇11月13日、坂戸市入西の調節池そばの草地で4羽（増尾節子）。◇11月22日、大宮市の治水橋北側の旧運転免許試験場周辺の田んぼで約130羽。ときどき一群となって見事な飛翔（渡辺喜八郎、松井昭吾、新堂克浩）。

トウネン ◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で1羽（鈴木博志）。

オジロトウネン ◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で2羽（鈴木博志）。

ウズラシギ ◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で1羽（鈴木博志）。

アオアシシギ ◇10月22日、杉戸町の大島新田貯水池で6羽（鈴木博志）。◇11月5日、

熊谷市の荒川熊谷大橋下流で3羽（森本國夫）。

カワセミ ◇10月29日、久喜市東4丁目の中落堀川向地大橋付近で1羽。両側が鉄板で固められた人工の川で、あまりきれいな川ではないので、かわいそうに思います（井上暁子）。

ヒヨドリ（部分白化） ◇11月22日、浦和市南浦和の一本木公園で胸から腹にかけて白い個体1羽（門谷直樹）。

ルリビタキ ◇11月23日、戸田市の戸田公園で♂1羽。当地初記録（高橋達也）。

ジョウビタキ（初認） ◇10月22日、北本市の荒川高尾冠水橋上流で♀2羽（内藤義雄）。◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋南詰バス停留所付近で1羽（登坂久雄）。◇10月28日、寄居町桜沢の自宅付近で♂♀各1羽。「ヒッヒッヒッ」と夢の中で懐かしい声。おや、夢じゃないぞと飛び起きた。向かいの家のテレビアンテナに♂1羽。初認です。ここ2年間は♀のおジョウ様でしたが、今年はプリンスでした（小池一男）。◇10月28日、大宮市の芝川で♀1羽。今年も来てくれました。何回見てもうれしい（浅見徹）。◇10月28日、深谷市の仙元山公園で♂♀各1羽。ペアで行動していた（新井巖）。◇10月28日、熊谷市中西の熊谷総合病院のフェンスで♂1羽。ドアを開けたとたん一年ぶりのご対面でした（岡田夏子）。◇10月29日、久喜市東4丁目の自宅付近で声を聞く（井上暁子）。

アカハラ ◇10月28日午後8時30分、岩槻市加倉5丁目、国道16号線から100m位南の路上端でうずくまっている♀1羽を保護。自宅まで両手で抱いて帰ったが、その間手の温もりで元気を回復したのか、盛んに動



ツグミ（菱沼 一充）

くようになる。家に帰って翼等調べてみたが、ケガをしている様子もないので、すぐに放鳥した。一声鳴いて、夜の闇を東の方へ高く飛んで行った（藤原寛治）。◇11月6日、戸田市の戸田公園で5羽（高橋達也）。

ツグミ（初認） ◇11月15日、深谷市西島の自宅前の電線で1羽（杉本友江）。

キクイタダキ ◇10月28日、深谷市の仙元山公園で2羽（新井巖）。

キビタキ ◇11月16日午前10時、上尾市の丸山公園の野鳥の森で♂♀各1羽。この時期初観察。おどろき！！（乗田実）。

ホオアカ ◇11月11日、北本市の荒川高尾冠水橋付近で1羽（内藤義雄）。

オオジュリン ◇10月28日、本庄市の利根川坂東大橋下流で1羽（登坂久雄）。

イカル ◇11月9日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で1羽（藤森三治・恵美子）。

ハシボソガラス（部分白化） ◇10月16日、吉見町の総合運動公園に隣接する畑地に多数の中に1羽。三列風切の部分が白化していた（内藤義雄）。

表紙の写真

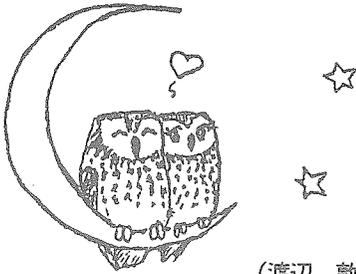
アオシギ（シギ科）

奥日光の探鳥会でアオシギが出たという話を聞いて、ふむふむ、では、あの秘密のポイントにも来ているはずだなと、12月初めの日曜日、湯元温泉行きのバスに乗った。

英名はSolitary Snipe。孤独なシギという

意味。清棲幸保氏著『野鳥の事典』によればサワシギとう俗名があるという。ふさわしい名前だなとうなずきながら読み進むと、ブタシギ、バカシギなどとも呼ぶという。なんだこりゃ。海老原美夫（浦和市）

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆1月3日、浦和市さぎ山記念公園探鳥会は12月号連絡欄をごらんください。

滑川町 武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月7日(日)

集合：午前9時30分 森林公園南口入口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乘車、終点下車

費用：入園料390円(子供80円)

担当：内藤、岡安、吉原、榎本、石井(幸)、佐久間、長谷部、藤掛

見どころ：冬の森林公園第三弾!!のんびりやすんだ人は、体調を整えるためにこたつから飛び出して参加して下さい。チョットコイ、チャッチャッチャ!!

北川辺町 葦良瀬遊水池探鳥会

期日：1月7日(日)

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋8:30、東武日光線乗換8:53→柳生9:02

担当：中島(康)、松井、五十嵐、入山、内田、篠原(五)

見どころ：遊水池に集まるカモは万羽に近く、種類も多く探し出すのも楽しみのうち。ワシタカも何種いるかな?

熊谷市 大麻生定例探鳥会

期日：1月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03

発に乘車

担当：小池、森本、田口、斉藤、中島(章)、和田、石井(博)

見どころ：今年はどんな鳥にあたるだろうか、一年間の運だめしに大麻生にどうぞ、冬鳥も勢揃いでお待ちしております。ちなみに昨年の1月は43種でした。

吉見町 吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月14日(日)

集合：午前9時30分 吉見百穴入口前

交通：JR高崎線鴻巣駅東口、東海銀行前より東武バス8:53発に乘車、「百穴入口」下車、徒歩5分、駐車場利用の方は百穴入園券(150円)を購入して下さい。

担当：榎本、岡安、内藤、吉原、高草木、石井(幸)、立岩、藤掛

見どころ：来るたび周囲の環境が変わる吉見大沼、水位もさがってカモは少ないけれど、雑木林には冬の小鳥がいっぱい。前回同様ワシタカ類が飛べば最高!

ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査

期日：1月15日(月・祝)

集合：午前9時

今年もカモ類の県内一斉調査を実施いたします。気楽にご参加下さい。

◇所沢市・狭山湖

集合場所：狭山湖堤防の上

担当：三田長久

解散は昼近くの予定。雨天決行です。調査

ですので参加費は要りません。

ご自分のフィールドでカモ類の調査をされた方は種別カウントデータを集計担当の三田長久まで1月31を目途にお送り下さい。

送付先住所：〒350-13狭山市入間川943-61

栃木県 千本松探鳥会

期日：1月20日（土）

集合：午前9時15分 JR東北本線西那須野駅前、集合後タクシー分乗にて現地へ。

交通：JR宇都宮線大宮駅7:16→宇都宮8:18、宇都宮8:23→西那須野9:03

解散：14時頃、現地にて

担当：中島（康）、松井、桜庭

見どころ：昨年大好評の場所のひとつ、何故かは『しらこぼと』NO. 133号の行事報告を一読下さい。昨年は雪でした。防寒対策は充分にして下さい。

春日部市 内牧公園探鳥会

期日：1月21日（日）

集合：午前8時15分 東武伊勢崎線春日部駅西口、東武バス1番バス停前（集合後バスで現地へ。8:28発→東光園下車）または、午前9時15分 アスレチック公園前駐車場

担当：石川、吉安、篠原（東）、入山、橋口、中村（栄）

見どころ：葉を落とした雑木林や屋敷林を巡り、冬の小鳥達を観察。昨冬滞在したアカゲラに出会えたらラッキーですネ。

長瀧町 長瀧探鳥会

期日：1月21日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀧駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、またはお花畑9:01発に乗車

担当：小池、佐久間、町田、青山、林（滋）、岡野、井上、新井、堀

見どころ：厳しい冬のこの季節、観光客もなくオシドリなどの水鳥もホッと一息。「気ままにバードウォッチング」のコースを歩きます。何がでるか当日

のお楽しみにしておきましょう。

浦和市 三室地区定例探鳥会

期日：1月21日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後バスで現地へ）または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、兼元、笠原、若林、倉林、岡部、森

見どころ：三室の探鳥会を楽しみにしている多くのナチュラリストに、今年も鳥、草花、田圃、蝶、トンボ、代用水、斜面林の美しさを贈ります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：袋づめばかりでなく、鏡びらきならぬ袋びらきもやりましょうか。その後はビデオびらきとなりますかな。

豊城県 伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：1月27日（土）～28日（日）

集合：27日午前7時10分 大宮駅新幹線北口改札口前（事前に乗車券購入のこと）

交通：新幹線7時26分（やまびこ33号）乗車
費用：10,000円の予定（1泊2食付宿泊費、現地交通費、保険料、懇親会費を含む）
現地迄の往復交通費は各自負担。ウィークエンドフリー切符（往復15,000円・新幹線自由席）利用が便利です。

定員：15名（先着順・県支部会員優先）

申し込み：通常はがきに住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫 まで

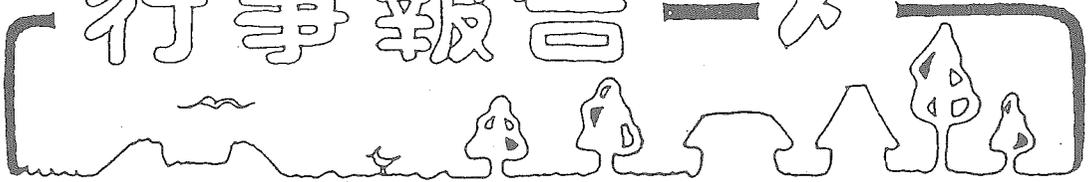
担当：中島（康）、松井、楠見、桜庭

見どころ：万羽を越すマガンの群れ、オジロワシ、オオタカ、ハヤブサ、チュウヒなどのワシタカ類が楽しめます。

注意：積雪の中を歩きます。防寒と足擦は充分に。宿泊は男女別の相部屋です。

◆行事案内は5頁にも掲載されています。

行事報告



9月15日(金、休) シギ・チドリ類一斉調査
ボランティア: 12人

浅見健一、浅見 徹、石井 智、海老原美夫、金井祐二、河辺昌治、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、長谷部謙二、三田長久、吉田時規

10月21~22日(土~日) 長野県戸隠飯綱高原
参加: 34人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カルガモ コガモ トビ タカsp キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ アカハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キビタキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ ノジコ アオジ カワラヒワ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) バスが高度をかせぐと、あたりは次第に赤や黄色の鮮やかさを増し、去年に比べると紅葉は見違えるようだった。一の鳥居付近では、カシラダカやヒガラの姿を見かけるが少なく、ようやくイカルとビンズイを見つけてほっと胸をなでおろした。二日目も好天。隋神門付近のベンチでゴジュウカラを見ていると「キビタキ!」との声。見上げると、数羽の群れにムギマキも混じっていた。ささやきの小道ではマミチャジナイの群れに出会い、やっと参加者も満足? (菱沼一充)

10月22日(日) 蓮田市 黒浜沼
参加: 34人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ チウサギ コサギ コガモ オオタカ コジュケイ クイナバン タシギ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 黒浜沼は、普通の日曜日には釣り人が多くて、カモ類などもあまり見えないが、この日は

釣り人が少ないためか、北側の干潟ではバンやクイナも出てきた。沼の奥の雑木林では、カケスがよく見られた。最後には、オオタカも見られ、まずまずの探鳥会だった。(中島康夫)

10月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 19人

岩上照代、岩波勇一、江浪 功、大坂幸男、角田真喜子、門谷直樹、河辺昌治、佐久間博文、玉井正晴、乗田 実、橋口弘視、原田 譲、藤掛保司、藤野富代、藤原まゆみ、森 力、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎

11月3日(金、休) 上尾市 丸山公園
参加: 31人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ チョウゲンボウ コジュケイ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス ヒガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) この朝は一段と冷え込み、この秋一番。お目当てのカワセミ・ジョウビタキをじっくり観察。土手に上がると雪を頂く富士山が見える。快晴に恵まれ、途中からコースを変えて荒川沿いを歩く。空を見上げると2羽のチョウゲンボウが輪を描きながら舞っていた。全員秋空を満喫。(乗田 実)

11月3日(金、休) 富士見市 柳瀬川
参加: 51人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ チウサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ キジ タゲリ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (27種) 雲一つないよい天気。

川原では、まずカモやセキレイを近くで見て挨拶。土手の上を下流に歩く途中でキジ♀7羽がバサバサと飛んだ。お目当てのタゲリは遠くの田に20羽位いるのが分ったが、犬に追われて飛んでしまった。しかし、近づくと、なんとまだ20羽位が残っていて、ゆっくり見られた。(佐久間博文)

11月3日(金)～11月12日(日)

秋のパネル展 — 野鳥も人も地球の仲間

ボランティア：19人

新井 巖、伊藤芳晴、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大嶋恵里菜、大嶋和夫、工藤洋三、倉崎哲郎、小出 博、佐久間博文、篠原東彦、田口浩司、手塚正義、林 滋、菱沼一充、福井恒人、町田好一郎、森本國夫 ♪ バードフォトコンテスト1995入選作と過去8年間の作品合計30点の写真を展示。会員の撮影したビデオ作品も放映。グッズの販売や多数の来訪者への普及活動など、にぎやかな会場でした。事前準備から展示作業、撤去作業まで、ご苦労さま。

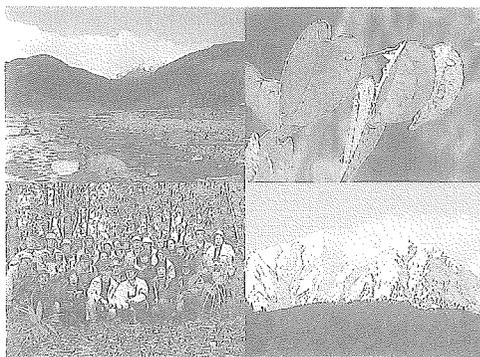


11月4～5日(土～日) 長野県 白馬高原

参加：30人 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トビ ノスリ キジバト アオバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ウグイス センダイムシクイ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(40種) 0cmから一気に50cmまでの積雪。猿倉林道は雪の中。急遽、第1日の探鳥地を居谷里湿原に変更。しかし、アカゲラのみで声はすれども鳥の姿は見えず。あ

きらめて、紅葉と冠雪の絶景『白馬三山』を眺めながら昼食。移動の途中の青木湖でカンムリカイツブリやカモたちを確認し、『にほめの一步』に到着。一服後、車で上部林道へ。カラ類、カシラダカなど夕闇迫るまで観察し、宿に入る。夕食前に何人かは秘湯(?)訪問。小宴会、白馬山麓の花鳥ビデオを観賞して、後はエンドレスの鳥談議。翌朝は6時に起床。浅間山でカケス、エナガ、お目当てのミヤマホオジロなどを観察。朝食後、上部林道を再散策するがいまいち。鳥が少ないとボヤク割りには、なんだかんだで40種。素晴らしい冠雪と燃えるような紅葉の付加価値で、評価二重丸の探鳥会と全員で納得。一步オーナーの渡辺さん、お世話になりました。(町田好一郎)



11月5日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加：44人 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ コジュケイ クサシギ タカブシギ タシギ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) 見沼代用水斜面林では、樹上で休むアオサギの姿を、また、加田屋川ではタカブシギ、クサシギを全員でじっくり観察。染谷の植木畑では、ツグミ、アオジ、ジョウビタキ等冬鳥を観察。今季初認の人も多かった。上空には、オオタカが二度も出現し、稲荷神社の雑木林では、アカゲラまで出て盛り上げてくれた。見沼代用水、斜面林、田圃、中を流れる加田屋川のおりなす豊かな景観が、今後も開発されずに残ることを願いつつ探鳥会を終えた。(工藤洋三)

連絡中長

バードソン1995の結果報告

バードソン事務局から、11月13日現在入力済みの募金予定額などに基づく成績表が届きました。

「リブラン・リフレッシュ彩のくに」チームは、種類数53種で26位、募金予定者数 222人で3位、募金予定額525,990円で6位、総合成績8位という好成績でした。

募金目標総額1,500万円のところで、予定総額は13,538,179円になっています。ご支援ありがとうございました。

土曜日当番から土日事務局オープンへ

従来役員リーダーが交代で事務局の土曜日当番をつとめていましたが、その制度を廃止して、代わりに、土曜日と日曜日の会議などが予定されている日時をお知らせし、その時に事務局を利用して頂くことになりました。

事務局にご用の方は、予定に合わせてお出かけください。用のない方もどうぞ。

「阪」から「坂」へ

探鳥会開催地のひとつ、本庄市の坂東大橋は、今まで群馬県側は「坂東大橋」、埼玉県側は「阪東大橋」と表記していましたが、当支部でも、「阪」の字を使用していました。

ところが、最近になって、埼玉県側も「坂」の字に変更することになりましたので、当支部もそれに合わせて、「坂東大橋」と表記することにします。

ご寄付ありがとうございます

5年11月奥日光探鳥会参加者2,100円、5年12月伊豆沼探鳥会参加者10,510円、6年2月リーダー役員懇親会参加者5,658円、6年6月戸隠探鳥会参加者7,163円、6年6月総会懇親会参加者3,083円、6年10月戸隠探鳥会参加者6,071円、7年2月カリフォルニア個人ツアー参加者52,046円、7年5月戸隠探鳥会参加者2,884円、岩上照代切手5,580円分、

浦和市立郷土博物館親子探鳥会講師（楠見、工藤、倉林、福井）5,500円、川口由美子1,500円、小林真哉1,000円、小島正貴1,000円、小林みどり13,100円、鈴木忠雄30,000円、田沼利彦 500円、匿名2,100円、匿名3,000円、新田美代子 3,000円、藤野富代10,000円、三好信子 2,000円、山本真貴子 1,000円、渡辺喜八郎 1,000円。ずいぶん前の未掲載もありました。申し訳ありません。

(50音順、敬称略)

1月の事務局 土曜日曜の予定

10日(土) 編集会議(1時から)

17日(土) 校正作業(1時から)

24日(土) 袋づめの会(1時から)

会員数は

12月1日現在2,724人です。

活動報告

11月2日 パネル展準備作業(事務局)。

11月13日 役員リーダー全員に「普及部だよ」発送作業(楠見文子、海老原教子)。

11月18日 12月号校正(海老原美夫、工藤洋三、桜庭勇)。

11月19日 役員会議(司会:登坂久雄、各部の報告・今後のパネル展・土曜日当番・評議員会と関東ブロック協議会茨城大会への出席者・その他)。

編集後記

編集作業が一段落したところで、それぞれの鳥見の楽しみについての話になった。双眼鏡を下げて野山をとにかく歩く楽しみ。その中でふと出会う鳥たちに、お、頑張っているねという共感。何と言っても「ときめき」。他にやることがないから。酒がうまくなるから。野鳥の会で伴侶を得たので、その義理から抜けられないだけなんですよ……だってさ。(山部直喜)

『しらこぼと』1996年1月号(第141号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用